

安曇野日和



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

2021年3月、東日本大震災から10年が経ちました。地震、津波、原発事故が重なって、地震大国ニッポンと言われる我国でも未曾有の大災害となりました。

当時の報道では市街地に津波が押し寄せる映像が連日流されていましたが、PTSD（心的外傷後ストレス障害）を強く刺激するとの意見から、ほとんど放送されることはなくなりました。何らかの特集や災害関連の報道番組でも「これから津波の映像が流れます、ストレスを感じる方は視聴をお控えください」とアナウンス、テロップが事前に流れます。そして10年が経ち、まあまあ勝手に「節目の年」とであるとされて、3月11日にはNHK、民放を問わずたくさんの津波の映像が放送されました。もちろん事前のアナウンスやテロップは使用されていたものの、これまでとは量が違います。これだけ多量かつ長時間この映像に曝されると、絶対に津波の被害に遭うことはない長野県に住んでいながらも、言いようのない胸苦しさを覚えました。当然「逃げる」「命を守る」ことが併せて伝えられているので、教訓としての強いメッセージなのですが、被災者や海に近い場所に生活されている方にとっては非常に大きなストレスであったと思います。

新型コロナウイルスや同ワクチンについての報道でも、伝えることと「インパクトを与える」ことが同列に扱われているような気がしてなりません。賢明な視聴者の判断に委ねているのですが、辛い報道が長く続いている中では、重いストレスを一つ上乗せされたような息苦しさを感じました。

表紙写真

写真タイトル：「道祖神と常念岳」

撮影者：樋口 孝

安曇野には村の守り神として、身近な神として、数多くの道祖神があります。今回は、文字碑と雪を被った常念岳を撮りました。

11月 22病棟 秋を楽しむ

11月5日、22病棟で秋を楽しむレクが行われました。朝は冷え込んだものの日中は晴天に恵まれ、気持ちの良い散歩となりました。落葉が進んで葉の彩りは後わずかでしたが、患者さんからは「気持ちいいね」「やっぱり歩かないと」「落ち葉集めやるよ」「家が近いから帰りたいなあ」との声が聞かれました。景色を堪能した後は、笑顔で記念撮影をしました。



午後は、牛乳・バターを使った茶巾しぼりやふかしイモを作り、秋のひと時を楽しみました。



11月 13病棟 ゲームレク



11月24日、13病棟ではチーム対抗のゲームレクが行われました。魚への漢字の名前当てクイズでは、鯡(にしん)、鰯(いわし)、鯖(マグロ)、鰯(あさり)、鱈(うろこ)などの漢字があり、ああでもないこうでもないかと相談して答えていました。難しい漢字を難なく答える患者さんもいました。その他、漢字のスポーツの名前当てクイズ、



都道府県名当てクイズ、イントロクイズなどのゲームで患者さん達はおおいに盛り上がりました。



午後は、スタッフと有志が中心となっておやつ作りをしました。周りで見守る患者さんからは、「おいしくな〜れ」などの応援もありました。本来はココナッツの食感も楽しめるおやつですが、患者さん皆が楽しめるように内容を工夫をし、提供されました。患者さんたちはにこやかに食していました。



12月 クリスマス会

今年は感染対策で、各病棟との接触を避けるために病棟単位での実施となり、12月14日～17日の4日間のクリスマス会となりました。会場は3階食堂、院長先生の歌や、職員の演奏と歌の発表(モニターでの映像放映)、OTスタッフによるハンドベルの演奏、病棟の患者さんと職員による紙芝居の発表がありました。紙芝居の発表では、各病棟ごと何回も練習を重ね、当日まで頑張ってきました。どの発表もとても好評でした。最後にはサンタさんが現れ、プレゼントの靴下をもらいとても喜んでいました。



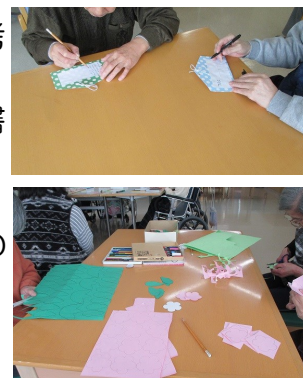
1月 22病棟 絵馬



毎年お正月に行っている恒例行事の書初めを、今年は思考を変え、絵馬を書いてみました。

病棟OTの時間を使って、各自思い思いの目標や願いを書き込んでいました。最後にみんなで書いた絵馬を模造紙に貼って、願いを込めて壁に飾りました。

書初めもお正月らしくていいですが、今まで書いたことのない絵馬にしたことで、患者さんも新鮮で楽しみながら取り組んでいました。



1月 13病棟 カラオケ大会

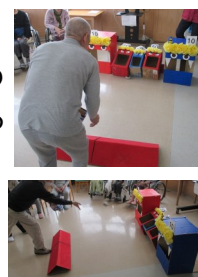
1月26日、患者さんに大人気のレクリエーションであるカラオケ大会が行われました。今回は「カラオケ歌合戦」として、採点機能を使用し個人戦で行いました。採点機能もいつも使用しているものとは違い、精密採点という辛口の採点機能で行いました。皆普段のOTのカラオケでの練習の成果を発揮し、一生懸命歌っていました。また、最後にはチーム戦でイントロクイズも行い、病棟スタッフも参加してとても盛り上がりました。



2月 22病棟・23病棟 節分

2月4日に22病棟、2月10日に23病棟で、それぞれ節分レクが行われました。

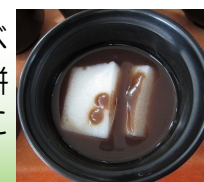
22病棟では、まず準備体操と節分クイズを行いました。三択問題で正解だと思うところに手を挙げてもらいました。なかなか難しく、考えすぎてどこにも手を挙げられない患者さんも多くいました。その後は節分的当てゲームをしました。個人OTで患者さん数名が共同で作ってくれた鬼の顔の的の口に球を入れ、点数を競うゲームです。みんな的をよく狙って球を投げていました。午後は女性患者さん数名と職員で作ったプリンを食べ、楽しい一日を過ごしました。



23病棟はチーム対抗で節分ゲームを行いました。鬼を模した的に球を入れ、入った個数を競いました。なかなか入らない人、すばすば放り込む人、人それぞれの違いはありましたが、得点の発表ごとに拍手が起こり、会場は大いに盛り上がりました。



同日に食事療養部主催のセレクトおやつがありました。誰でも食べられるよう工夫を凝らしたおやつが6種類ありました。お汁粉のお餅に見えるものはお米のペーストを固めたもので、お汁粉を久しぶりに食べたと目を潤ませる患者さんもいました。



菊の日

11月24日に菊の日が行われました。

昨年の7月に三郷にある木村設業様より、患者さんにロールケーキとプリンの差し入れを頂き、その表彰が行われました。

木村設業様へ感謝の意を込めて、患者さんが作った「きめこみ細工」と折り紙で作った「招き猫」が贈られました。



防火防災訓練

1月27日に夜間想定 of 防火防災訓練を実施しました。誰もいないはずの食堂より出火想定だったため、出火場所近くの11病棟職員が消火用散水栓より初期消火を行いました。

また消防署への通報や、院内へのアナウンス等、円滑な情報伝達を意識した訓練が行われました。



第55回長野県精神科病院協会 職員研修会

2月20日に今年はweb研修会で行われました。今回は当番病院として、城西病院が開催運営を担当しました。県内の数多くの病院がリモートで参加し、当院からは22病棟の看護師が発表しました。

第2部の総合討論では、北アルプス医療センターあづみ病院副統括院長の村田志保先生による「精神科領域の危機管理、DPATの役割を含めて」、諏訪赤十字病院の丸山先生による「組織対応としての職員ケア」をととても分かり易く講演していただき、今後もweb開催になっていくのであれば、とても参考になりました。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103

長野県安曇野市三郷小倉6086-2

TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

編集後記

オリオン座が早い時間から南に上り、カシオペア座は西に沈んでいます。夜空が次第に霞がかかったようになってきたこの頃です。第34号となる今回の安曇野日和は、令和2年11月から令和3年2月までの、当院の出来事を掲載しています。季節とともに移り変わる院内の様子も、あわせて感じて頂ければ幸いです。